

# 未来を語れる社員へ投資

## 前澤工業 松原社長年始あいさつ

前澤工業の松原社長は5日の仕事始めに当たり、年始あいさつを行った。新型コロナウイルスの感染防止対策として、社員は本社会議室に分散出席し、出先事務所等とも画面を通して新年展望を共有した。概要は次の通り。

新年あけましておめでとうございませう。昨年未は新型コロナウイルスの第三波による感染が急拡大し、年明け早々から慌ただしく、非常に波乱に満ちた令和3年のスタートと言えます。これまでの日常は戻って来ないと思っている方は多いでし



松原社長

ようし、時代が変わったというのを皆さんも感じられているのではないでしようか。報道によると、新型コロナウイルスの感染者数は3日現在、全世界で約8488万人、死者数は約184万人に及んでおり、昨年は新型コロナウイルスに翻弄され

た一年でした。日本も緊急事態宣言が発出され、経済活動が一気に落ち込んだものの、政府が補正予算など対策を矢継ぎ早に打ってくれたことで、この危機をどうにか乗り越えようとしています。その中で、特別定額給

付金の支給で見られた通り、デジタル化の遅れがクローズアップされました。行政だけでは

働き方が変わったということですが、こうしたデジタル化を徹底させることが、優秀な人材を集めるツールになり得る気はしています。今年1年を展望すると取り組むべきことが多岐にわたりますが、特に人口減少が大きな課題である日本で、企業が持続的に発展するためには生産性の向上が第一だと思えます。世間ではIT投資によるビジネスモデルの改革が叫ばれています。その原点は働く人のスキルアップにあります。業績が悪化してくると研修費などを削減しがちですが、当社は人への投資を強化しようと考えています。ビジネスモデルの変革に結びつけるために、IT投資をさらに進めながら、未来を語るこ

とができる人材を多く輩出する、そうした一年にしていきたい。社員一人ひとりが日常感覚を生かしながら主体的に学び、周辺の情報を咀嚼し、全体を俯瞰しながら全員で答えを出していく行動を基軸にしていたらいい。自分事としてチャレンジする社員であふれたら、今年の年末に言えるようにしたいと思っています。当社は5月末で現中期3カ年計画が終了しますが、業績も上向いており、皆さんの努力で成果が着実に上がってきていま

す。さらに、6月からスタートする新中期3カ年計画につなげていきたい。インフラを支える社会的使命を担う当社の存在意義に直結する思いでもあります。当社グループの事業はバルブ事業、エンジンアリング事業、メンテナンス事業の3本の柱で構成していますが、インフラストック市場にチャレンジするこれまでの方向は間違っていない。新型コロナウイルスの感染拡大で幸先がいいスタートとは言えませんが、良い製品、良い施工をお客さまに届けられるよう、一致団結して頑張りたいと思います。本年もよろしくお願ひします。